

沖縄県豊見城市が

取り組む

「着地型観光」

実現への戦略

現状の「通過・立寄り型観光」から「着地型観光」に発展するため、地域再生マネージャーのもと、果敢に挑戦を続ける沖縄県豊見城市。今回は同市の実施概要をレポートします。

ふるさと財団では、「地域再生人材相談事業」を平成20年度からの新規事業として立ち上げ、その一つとして「地域再生マネージャーによる短期派遣事業」を始めました。

この事業は市町村の抱える地域課題を解決するために、それに相応しい地域再生マネージャーを短期派遣し（一般には3日以内）、地域課題や地域資源の診断、地域の活動主体の診断（行政、NPO、民間企業、地域住民等の活動や連携の在り方ほか）、地域において今後求められる戦略ま

たは施策等を提言するものです。

地域再生マネージャーという外部の専門の人材による診断結果や提示される戦

略・施策が、市町村の地域振興に向けた取組のヒントやトリガー（きっかけづくり）になれば幸いです。平成21年度は全国17地域で「短期派遣事業」を実施予定です。今回は沖縄県豊見城市を含め、8月～10月に実施された3地域の概要を以下にご紹介します。



左／地域再生マネージャーによる観光関連施設の視察
下／地域再生マネージャーによるラムサール条約登録湿地漫湖の周辺視察



沖縄県豊見城市

現状の「通過・立寄り型観光」から「着地型観光」に発展するための戦略について検討しました。

地域再生マネージャーから指摘された豊見城市観光の課題

地域再生マネージャーからは、「観光事業推進の意義・必要性およびゴールが、地域内で共有化されていない」「豊見城市として攻めたい顧客ターゲットが不明確である」「明確なアイデンティティがなく、売り・強みが伝わらない」「沖縄県への入込観光客をうまく取り込めておらず、立寄り客に限定されている」といった課題が指摘されました。

提言された戦略・対応の方向性

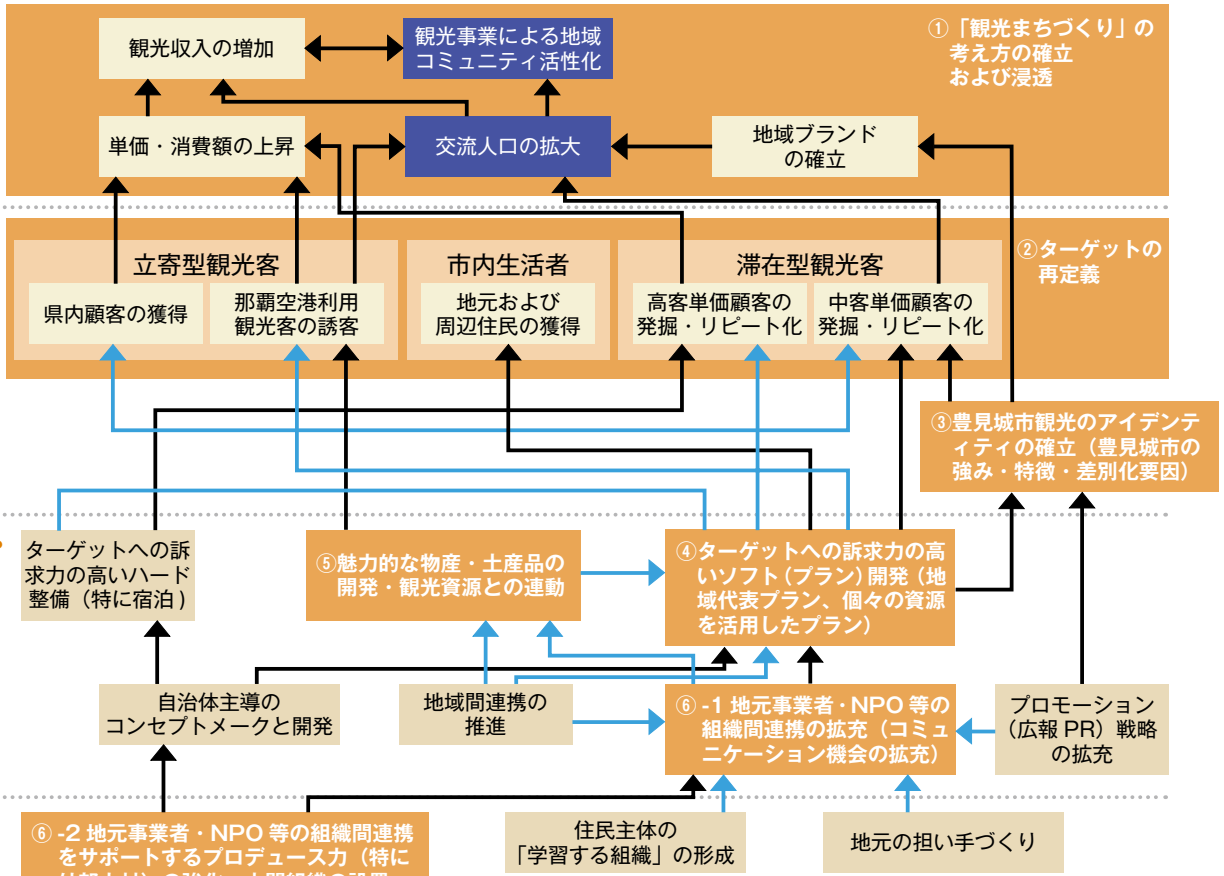
課題に対しては、次のような戦略・対応の方向性が示されました。
1つ目は「観光まちづくりの考え方の確立および浸透」です。観光まちづくりの考え方は、地域社会と地域資源と来訪者の3者が、それぞれほかと齟齬をきたすことなく、持
課題に対しては、次のような戦略・対応の方向性が示されました。
豊見城市においても、地域住民にとつて「住んでよし」のまちづくり、すなわち地域資源の保全・再生・価値向上を通じて地域の自信・誇りをもつこと。そして、来訪者にとつて「訪れてよし」のまちづくり、すな

戦略の方向性

顧客の視点

運営方法・仕組みの視点

組織・人材育成の視点



※①～④が主要な提言された戦略・対応の方向性

提言の全体像

わち地域の魅力を訴えかけることで、交流人口を拡大することの重要性が提言されました。

2つ目は「ターゲットの再定義」です。現状の観光は客単価がそれほど高くなく、立寄りを中心という位置づけでした。それを「客単価が高く、滞在日数も長い」という位置づけへ変貌させることが求められます。中長期的には、コンベンション施設の利用や滞在型リゾートを利用することや、高客単価滞在顧客の取り込みなどを検討すべきという提言がありました。

3つ目は「豊見城市観光のアイデンティティを確立させること」です。客単価が高く滞在日数も長い観光地という位置づけに変貌するために、地域資源を活用した住民主体のツーリズム(エコツアー、スポーツ体験等)を育てることです。そして、それを基盤として民間主導・連携によるツーリズム(リゾートショッピング、メディアカルツーリズム等)を拡

充することが提言されました。

4つ目は「ターゲットへの訴求力が高い観光プランの開発」です。沖縄観光の玄関口である那覇空港に近しいという豊見城市の強みを活かし、観光客が空港に着いた直後もしくは空港から帰る直前に、短時間滞在ではなく半日から1日程度の滞在を可能とするような観光プランを開発することが提言されました。



地元関係者との意見交換会の模様

ふるさと財団「短期派遣事業」の実績 (平成21年度8月～10月末日現在)

●**沖縄県豊見城市**

平成21年8月9日(日)～11日(火)
 地域再生マネージャー 高橋一夫(流通科学大学サービス産業学部教授)
 地域再生マネージャー 柏木千春(株式会社JTB 法人東京)

●**沖縄県石垣市**

平成21年8月20日(木)～22日(土)
 地域再生マネージャー 中島 淳(株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ)

●**秋田県由利本庄市**

平成21年9月30日(水)～10月2日(金)
 地域再生マネージャー 斉藤俊幸(イング総合計画株式会社)